

..... 編集後記 .....

◆ 地中深くにも生物が生息しているというのが最近話題になっていますが、本号の特集は、海底の場合の話です。ただ知識として知りたいということではなく、それぞれの研究には世の中の役に立てたいという目的がおありのようですから、成果を楽しみにしたいと思います。残念なのは、ほら、これがそのようにしてできたかも知れない黒鉱鉱床ですよ、と言って見学できる鉱山がなくなってしまったことですか。

◆ ボーリングコアを取り扱うのは大変です。重いですから。二十数年前、地熱の調査で大量のコアが得られることがわかったときに、当時の地質調査所の研究者は、それまで使用されていた長さ1mのコア箱でなく、その半分の箱を用意しました。それなら1人で容易に取り扱うことができます。そのため、地熱の研究者は腰痛に見舞われることが少なかったと言われています。嘘だと思っ方は、1人で1mのコア箱を持ち上げてみなさい。

◆ スウェーデンといえば安定地塊、そんな言葉は今でも使うのかどうか確かめていませんが、日本とは違うのでしょうかね。廃棄物処理の場所は、十分にがあるような気がします。脆弱な日本に住む地質研究者としては、ひがんでしまうところです。

◆ 韓半島と聞いて、少し驚きました。普段あまり見聞きしない言葉です。地図帳には、朝鮮半島と記載されています。ところが、韓国をよく知る日本人地質研究者によれば、朝鮮半島という言葉は、差別用語と受け取られ、大韓民国の人に嫌われるとのことでした。あちらを立てれば、ですか。機会があれば、あち

らの地質巡検記も読んでみたいものです。どなたかの御投稿を期待します。

◆ 写真コンテストは定例化しそうです。皆さん、十分な量の写真は御持ちでしょうか。昔の写真を整理したり、新たに撮り直したり。地質調査をしているときは、その場所へ行くことは通常一度だけであること、したがって天気によって左右されること、時間に限りがあること、時刻も自由に選べないこと、あまり重い器材は持ち歩けないことなど、写真撮影には厳しい条件が多いですが、これからも力作を期待します。

◆ 白いサンゴの砂浜、エメラルドグリーンの海、そしてハブですか。あの頭を潰したのは誰なのでしょう。どうやって、潰したのでしょうか。マムシに恐れおののいてしまう編者には、とてもできないことです。昔、東北の山の中を調査中に、赤い大きな蛇が鎌首をもたげて編者を威嚇してきました。後で、赤い青大将はいるのかと、山に詳しい人に聞いたら笑われました。それはヤマカガシだよと。大きなヤマカガシは、強いのです。奥歯に毒があるので、深く咬まれると危ないのです。

◆ 編集に関するトラブルがあって、もう地質ニュースなんか絶対書かないぞと思ったものでした。誰の話かって、ワタシですよ。それから10年以上経ちました。皮肉なことに、昨年、本誌の編集の仕事を仰せつかりました。初仕事の4月号に、猫の目のように、本誌の編集の責任者は替わります、と書いたら、また、その通りになってしまいました。読者の皆様には、これからもいろいろな機会にお目にかかれると思います。今後とも御愛読よろしくお願ひいたします。(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂  
副委員長：山本茂男  
委員：高木哲一・丸山 正・高橋裕平・  
光畑裕司・飯笹幸吉  
連絡先：地質調査総合センター  
地質ニュース編集委員会事務局  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 029-861-3603  
Fax. 029-861-3602

地質ニュース	第598号	2004年	6月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2004年6月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

© 2004 Geological Survey of Japan  
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。